

中医師による  
やさしい中医学講座  
第13回

いきいき元氣 血液健康学

現代人を救う  
「丹参」の力



今週の講師 藪 法滋  
(北京首都医科大学中医学教授)

「人は血管から老いる」といいます。血液・血管の健康管理こそ生活習慣病予防の決め手。いま丹参が、その切り札として注目を集めています。

古くて新しい生薬

血液サラサラ健康法、つまり「血(血の通り)の改善に最も有効な生薬の一つに「丹参」があります。日本ではあまりなじみのない生薬ですが、中国では古くから使われています。後漢(西暦一五〇—二〇〇年)の時代に記された薬物学の原典「神農本草経」にも登場し、そこに記載されている二百六十種の生薬の中では、体力を補い長く服用することができる優れた薬として「上品」にランクされています。

丹参には、血液を補い、血行をよくし、鎮痛・鎮静・精神安定などの作用があり、婦人病を中心に幅広く用いられてきました。中医学には、当帰・熟地・地黄・芍薬・川芎など四つの生薬からなり、婦人病の聖薬とされる四物湯という方剤があります。



丹参

丹参の効果は、単独で四物湯に匹敵するとさえ言われています。この生薬の研究は、新中国の誕生以来さらに進

み、臨床では脳卒中による半身不随、狭心症、心筋梗塞、血管性頭痛、ウイルス性心筋炎、喘息、慢性肝炎、慢性腎炎、糖尿病、不眠、子宮内胎症など多くの病気に良好な治療効果が報告されています。

血管を拡げ、  
血の汚れを改善

それでは、丹参はどのような作用をもっているのでしょうか。現代の薬理研究から主なものを紹介していきます。

①動物実験によって、丹参抽出液には心筋の収縮を制御し、エネルギーの消費を減少させる作用のあることが確認されています。つまり心臓への負担を軽減

イスクラからお知らせ 中成薬(中国漢方薬)の

させるといわれています。

- ②冠状動脈を拡張し、冠状動脈の血流量を増やす。
- ③狭心症と心動脈硬化に効果。身体各部に血液を送り出す心臓そのものは、心臓を取り巻いている冠状動脈から酸素や栄養をもらっています。心筋に十分な酸素や栄養が行き届かなくなると、狭心症や心筋梗塞の引き金となります。丹参には冠状動脈を拡張して血流量を増やす作用があるので、中医学では心臓病の治療や予防に用いられています。
- ④微小循環を改善する。

血管は大動脈から枝分かれして細い動脈となり、最終的には毛細血管となって体の末梢部の細胞を潤しています。丹参はこの末梢の血行も改善してくれる

除去する作用もあり、降圧作用とあいまって、動脈硬化の予防と改善に力を発揮します。特に狭心症や心筋梗塞につながる冠状動脈の粥状硬化を制御する作用は、丹参がもつ特徴的な効果の一つといえます。



したり、形成を予防して、くわんたけ、脳・心臓など血管系疾患の予防と治療では大

⑤血液凝固を防ぐ作用。血液に対する影響として最も重要なのが、血液を固まりにくくする作用です。血液の凝固は、血液中の血小板という成分の凝集によって起こります。丹参に

重要なのが、血液を固まりにくくする作用です。血液の凝固は、血液中の血小板という成分の凝集によって起こります。丹参に

変価値ある薬といえます。なお、正常な血液に対しては特に影響がないため、副作用の心配もほとんどありません。ただし、療血症でない人や出血傾向あるいは出血している人は服用を控え、必ず専門家に相談することをおすすめします。

「相談は全国に約千店ある日本中薬研究会会員店へ」